Okahata
NEWS LETTER

vol.45

2026
10



競争戦略とW杯観戦記

人財育成しません宣言2



YOUは何しに岡畑へ?

臭いゴムや樹脂向け、
ハーモセント技術のご紹介!

#【 PART 1 】

競争戦略と メキシコ観戦記



1 競争戦略について（いきなり笑）

『「違いを作って、繋げる」のが戦略の本質』とは弊社経営バイブル「ストーリーとしての競争戦略」から。

競合との“違い”を作って、組織で回すこと。**“違い”を作ることを** Strategic Positioning（以降、**SP**）と呼び、**組織で回すことを** Organizational Capability（以降、**OC**）と呼ぶ。



岡畑典裕的には、僕らしか出来ない**“違い”**を、組織みんなでよっしゃと回したら、すごい差別化できてました～、という会社づくりを夢見て社長業をやっておるのですが、その甲斐かただのご縁か、「北中米W杯日本代表戦を観に行きませんか」とお声をかけて頂き、いざメキシコへ（グループ・ステージ2試合目の**チュニジア戦**）

2 北中米W杯観戦記：メキシコで考えた競争戦略



1 試合前：W杯は夢舞台（僕にとってもね）。森保ジャパンの“違い”（SP）と組織力（OC）について

2000年前後、ペルージャ（イタリア）やラコルーニャ（スペイン）まで、中田英寿選手やチャンピオンズ・リーグ準決勝を観に行く、ハードコア・サッカーファンだった自分にとっても、W杯は夢舞台。

最近はサッカーから遠ざかっていたので、W杯関連書籍を読み漁りつつ、ついつい癖で、今の日本代表はなんでこんなに強いんだっけと、経営目線で**SP**&**OC**雑分析↓

2026森保Japanの競争戦略↓

▶Strategic Positioning：“違い”

ひとりで“違い”が作れる欧州トップチーム主力組。
相手が疲れてきた後半に繰り出す、
多彩な後出しジャンケン（交代戦術）

▶Organizational Capability：“組織能力”

全員走る、団結

2 試合当日：ただただサイコー！

チュニジア戦当日6月19日昼にメキシコ／モントレー着💦。マラドーナの神の手映像が町中で流れ（そう、あれは86年メキシコW杯）、現地人が着る日本の青ジャージがピーカンの青空に映え、サッカーの国バイブスが心地よい。試合開始は夜10時。様々な想いを乗せた関係者バスは大渋滞を突っ切っていよいよスタジアムへ。



試合結果はご存知の通り、**“違い”**を作れる選手たちが軽やかに4得点し快勝。試合後深夜、スタジアムからホテルまで意気揚々と歩いていたら、現地のおじさんから「いい試合だったな、アミーゴ。ホテルまで車で送ってやるよ」ごめん流石に断った笑。日本代表は快勝、タコスは美味い。ただただ、サイコーなメキシカン・ナイト。







3 ブラジル戦後に考えた、競争戦略とマイク・タイソン

メキシコの夜の2週間後、ノックアウト・ステージ・ブラジル戦は大阪自宅観戦。**「勝てるかも」**と夢を見させてくれた前半と、ブラジルが猛然と殴り返してきて、パニックのまま**「プレーを止めてしまった感」**（冨安選手試合後コメント）、魔物に飲まれたような失意の後半。

思い出したのは、**“Everyone has a plan until they get punched in the mouth”** というマイク・タイソンの名言。「計画通り行くから大丈夫、とか皆んな言ってるんだよ、パンチ食らうまでは」が直訳ですが、「計画通り行くわけないやろ、計画が崩れてからが本当の勝負だぜ」とか「**人は殴られないと分からない**（あくまで比喩ね比喩）」とかいろんな解釈のできる、タイソンのディープなお言葉。

ブラジル戦、計画以上超理想的な1ー0からの後半、ブラジルのパンチを食らった時には、**“違い”**を作るはずだった後出しカードは尽きていて、残された**“団結”**だけではサッカー大国には勝てなかった。。。

4 北中米W杯（とマイク・タイソン）から、岡畑典裕が学ぶべきこと〈 ポジティブ反省会 〉

“団結だけでは勝てなかった”、を勝手に**ポジティブ反省してみる。**

気づき（A）：

団結しているからこそ、“それやってくんの”みたいなリスクテイク／チャレンジできるチームになれば、勝てるかもよ（組織能力の話）。

競争戦略的に言えば、勝てる**OC**というのは、他者が模倣できないレベルまで磨きあげられた組織能力のことで、例えば、サイゼリヤとか。時間をかけて独自組織ルーティンに落とされ、練り上げられた競争優位。僕はサイゼ行く度に、細かいupdate（とあの価格競争優位）に**OC**ヤバイと感動しています笑。

団結が**OC**なのであれば、「世界一の団結」と言う言葉で立ち止まらず、団結できるからリスクテイクできるチームへの練り上げを。何やっても団結できる＝何をやってくるか分からない、常に後出しジャンケンできるチームになれば、マジで強そう（一時、それを目指してましたよね、森保さん）

気づき(B):

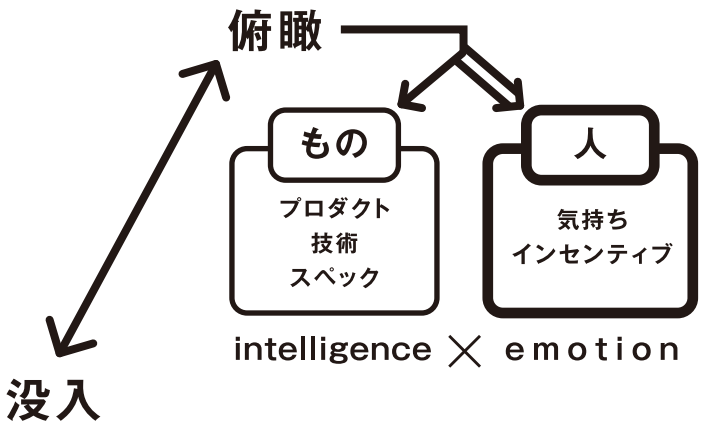
団結では勝てん、と本番で気づくのは、ちょい遅ない？**ボコられる前に、気付けたんじゃないの?**とは思った。

「殴られないと分からない」「修羅場は人を育てる」はめちゃくちゃ真実。僕の経営者人生なんてその繰り返し。でもね、ちょっと考えりゃ分かること、事前に防げる失敗も多いのも真実で、**何でもかんでも「失敗しないと／殴られないと気づかない」と括ってしまう前に、ちょっと考えてみよう。**

5 (ボコられる前に) “ちょっと考える”組織に

ちょっと考えりゃ分かる。は、まず正しい現状把握から。“自称得意”※1とか、都合の良い自己解釈ではなく、現実直視を／Brutal Factsを。

現実直視、現状把握の技術の一つとしての“俯瞰”話↓



2025.10.21 Link
“没入”と没入の向かう場所:俯瞰と誰得インセンティブ・マップ

謙虚に俯瞰、現状把握し、やるべきを全部並べてから、**今やるべきを選ぶ**。これだけ多様なことが起きる時代に、ただ目の前に起きていることに順番に反応し続けていては、**「犬の道」**※2まっしぐら。山のように積み上げられた、“やった方がいい”から、“今本当にやるべき”を選ぶ力を。

今どこにいて、どこを目指す？そのギャップは？そのギャップを埋めることこそが、今、本当にやるべきこと。

ちょっと考えれば、わかる／選べることだと思うのです。



※1 脱線コラム1

“人財育成しません”宣言の落とし穴 ― “自称得意”の放置にはご注意を

「これ得意です」の蓋を開けると、客観的には普通レベル、ってのはままある話。普通レベルでも組み合わせ次第、専門性は並でも、英語がめちゃくちゃできれば「英語×専門性」の合わせ技一本で**“違い”**は作れる。組織でも同じで、一歩踏み出しまくるあの人と、支えまくるあの人の組み合わせが**“違い”**になる。あなたとチームが生み出せる**“違い”**は何やろか。

（大事なこと言います：得意は自称できちゃうけど、**“違い”**はお客さまが決めること）

好きこそものの上手なれ。“好き・得意”から始めて、何かと組み合わせて、**“違い”**になるまで磨く。「それ、まだ**“違い”**にはなってへんよな」と“自称得意”の現在地を一緒に確かめ、磨き方を考えるのも、得意を活かすリーダーの流儀のひとつ。

目指すは、
▶謙虚に俯瞰、現状把握し、
“自称得意”から練り上げられる組織。
▶常にお客さま目線で、上司も部下も
「うまく行ってる?行ってない?
自分たちの強みは?弱みは?競合は?」と
問い続けられる組織。

得意を活かす会社は、“謙虚な俯瞰”と正しい現在位置の把握から。“自称得意”を放置せず、お客さまのお役に立つ**“違い”**になるまで、一緒に練り上げる。その練り上げ方＝流儀を、一人ひとりに合わせて、もっと多様に。
（セネカ“風”に言えば、「現在地を知らなければ、どんな風も順風にはならない」）

※2 脚注

犬の道＝“イシュー度”の低い“解の質”を深めようとすること。「イシューからはじめよ」参照。

#【 PART 2 】

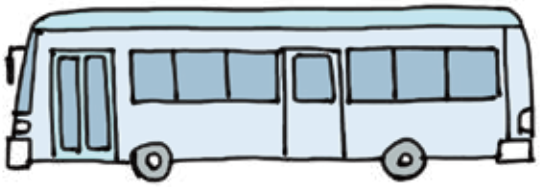
人を活かす人財育成宣言（流儀の多様化を目指して）

と、その前に、人財育成しません宣言（2024）を**ポジティブ反省**する。

反省（1）

いつの間にか、岡畑興産は
バンからバスに
乗り換えていた（汗）





- “FIRST WHO, THEN WHAT-GET THE RIGHT PEOPLE ON THE BUS”**（弊社採用ページ）** Link
- 「リーダーになる、っていうのは、バスのフロントシートに陣取る、バスの運転手になること」
  （リーダーシップのシン・定義） Link

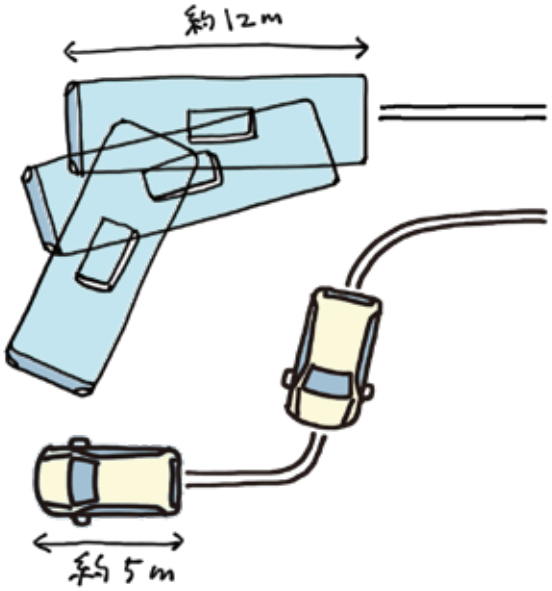
など、組織とはバス、リーダーとはバスを運転することだと唱えてきましたが、数年前までの僕の感覚は、岡畑興産はバスというより、バン。運転席から声を張れば、メッセージは届くし、後部座席からも行き先は分かる。笑い声も失敗談もみんなで共有、バンドワゴンはワイガヤ進む〜ってな規模感。

近年、新しいお仕事と多士済々（たしせいせい）が集まり（感謝感謝）、いつの間にやら、岡畑興産グループはバンからバスになっていた。その喜びのトレードオフとして、運転席と後部座席の距離が遠くなり、声が相互に届かず、次の角はどっちに曲がるのか、旗印・Why Okahataが、後部座席からは見えづらくなる。人と組織のフィット、得意を活かし自ら考え動ける**組織機動力こそが、岡畑興産の“違い”**だったはずなのに、動きが鈍くなっている。ハンドルを切ってから、曲がり出すまで時間がかかるし、曲がり方も、意図と少し違うような。

乗り物もバスになり、競争力ある商材も扱えるようになり、レベルの高いステージで戦えるようになった。アジアカップからW杯へ。よっしゃ、念願のブラジル戦だぜ、みたいな高揚感はあるのに、体のキレは、落ちている。なぜだなぜだなぜだ。

反省（2）

バスはバンほど曲がらない、
その理由：



悩みまくって、再び手に取ったのは、名著**「会社という迷宮」**石井光太郎著。人財育成しません宣言の後押し（元ネタ）となった「人材」章を読み返したのですが、再びぐうの音も出ず、そのまま引用。

[会社という迷宮／人材の章]

『「いろんな人がいる」「違いを認める」という理解だけでは、もちろん、意味がない。「個性」に応じて「人材」を活かすことができて初めて価値を持つ、何より、その力量と懐を「組織」が持ち合わせることが、すべての前提になる。

「会社」にとって重要なことは、ヒトそのものの多様性なのではなくて、ヒトを活かして「人材」にする流儀の多様性のほうなのである。その流儀がどこまでも我流一本槍でうまくいくはずはなく、多様なヒトの可能性を掘り起こして価値ある「人材」として活かす流儀そのものの幅の広さが問われる。「個性」的存在であるヒトを観る眼差しの深さと、そのヒトと自分の協働の関係を取り結ぶ経営者の流儀の多彩さが、「人材」をつくる力を決めるのである。』

出典：「会社という迷宮」石井光太郎　ダイヤモンド社　P192,193

ユリイカ！！！
多様な人を集めることはできたけれど、多様な個を活かす流儀が追いついてない、ってことか！！！

僕の［“人を観る眼差しの深さ”、“人を活かす流儀の多様性”］がまだまだ我流一本槍。個に合わせ、結果を出す柔軟な組織づくりは道半ば、まだまだどこかで“エースで四番”を期待したり、従来組織の延長で考える癖が残ってるのかも。

何はともあれ、昔のバンの運転技術のまま、バスを運転したら危ないよってことに、**ボコられる前に（いや事故る前に）**気付いてよかった汗。

話を元に戻して、答え合わせを。

2024年の
人財育成しません宣言での
仮説と答え合わせ：

「育成育成、社員頑張れ」いう前に、「経営者よ、人と組織のフィットを整えよ」。さすれば、おのずと学ぶ／育つというのが人財育成しない宣言での仮説。この**“Fit Then Grit”**の仮説検証／答え合わせ↓

大正解：fit then grit and grow なケース

- 仕事に直結する分野専門性／営業力は、学ぶ人は学びまくってくれて、やっぱ結果もついてくる。みるみる頼もしく成長する人が出てきたことは、ホント嬉しい。感謝。

不正解：no fit no grit なケース

- “自称得意”（脱線コラム参照）を鵜呑みにして、学びを促せないケースも散見。
- マネジメント・スキルの学びは深まらず。

この不正解は、バンのままなら露呈しなかった問題。バンの運転席から目配り声かけ、こっち行くからこれ学ぼうって対策できてたこと。バスに乗り換えたら、経営陣は運転に必死でその余裕がない汗

運転手に代わって、ひとりひとりに合わせた目配り声掛け対策、厳しくとも言うべきを言うリーダーが必要なのは分かっていたけど、この、リーダーに求められるマネジメントスキル、**人と組織の機微という目に見えないものを扱う、即効性さえない難行をみずから学びに行ってね**、という設定には、かなり無理があった。スイマセン。

ちょっと考えれば、分かること、だったのかもしれない。。。

というわけで、改めて、

2026年、人を活かす人財育成宣言（流儀の多様化を目指して）



まずは、管理職を対象に9月からリーダーシップ研修シリーズを始めました。

目配り声かけから始まる、**人を観る眼差しの深さ**（得意と不得意の見極め）や、**人を活かす流儀の多様性**。こう書くと難しいですが、要するに、チームの現状把握力＝**OC**型マネジメント研修から始めます。そう**OC**＝組織能力から。

学びの連鎖を弾み車のように全社に連動させていく一歩目。「これ学べ、あれ学べ」ではなく、**必要な学びの機会を、社員がさっと手を伸ばせる場所に置いておき**、社員がおのずと学べる環境整備。最前線で頑張る社員が、パンチを食らう前に駆け込める、学びの場。（その前に上司に相談を🙏）

これを今後の岡畑興産流“育成”の基本スタンスとし、「人財育成しません宣言」を改め、**「人を活かす人財育成宣言」**にupdateさせていただきます。

最後の社長の叫び：

ただバスがデカくなっただけじゃない。うちの大きなバスは、ワイガヤ、行きたいところに行ける。**冒険はまだまだ続くんだぜ**、というのは証明し続けたいと思っている。

#【 エピローグ 】

6 最後、ブラジル戦後半のたられば話：

ただのポジション・トークだと読み流して欲しいのですが、やるべきが決まらないパニック状態／現状把握不全だったあの後半こそ、与えられた場所で最適解を決め実行する男、**遠藤航選手**がブラジルに殴り返すきっかけ・“違い”になり得たんじゃないかな。いや、マジで。（岡畑興産と遠藤航選手のご縁は👉**こちら**）」 Link



参考・没入書籍たち

『ストーリーとしての競争戦略 ― 優れた戦略の条件』
著：楠木建
東洋経済新報社（2010）

『会社という迷宮 ― 経営者の眠れぬ夜のために』
著：石井光太郎
ダイヤモンド社（2022）

『イシューからはじめよ ― 知的生産の「シンプルな本質」』
著：安宅和人
英治出版（2010）・・・改訂版もあります！

［表紙秘話］

表紙ガッツポーズ写真（笑）は、遠藤航選手のリバプール初ゴール（23年フラム戦アンフィールドでの87分同点弾）がモチーフ。リンクはゴールシーン動画ですので、音量にご注意を！

参考動画：U-NEXT フットボール（YouTube） Link

最近のフットウェア 番外編

～熱人長文ライター藤原さんによるショートインタビュー集～

YOUは何しに岡畑へ？

フットウェア編

～ 大型新人？登場 ～ その 1



YOUのお名前は？

関西出身の山本洋平、50歳です。

YOUの人生、これまで何してたの？

東京理科大学を卒業して、伝統あるTHE昭和な大阪繊維商社でアパレル向けの営業として12年働いていたのですが、“昭和の気合い”についていけずに、（笑）大手繊維メーカー系の商社に転職しました。
そこは、ヨガで有名な海外急成長のトップアパレルブランドに素材販売をしていましたので、私の仕事人生は一貫して機能素材を海外ブランドに販売するという、アパレル貿易一筋の27年でした。

日本を代表する商社に勤めていたYOUがどうして、岡畑に？

45歳の頃だったと思いますが、仕事キャリアの先が見えてきたんですよね。
このまま“安泰コース”を進んでいくのが、本当に自分のやりたい事なのか、という気持ちになってしまって。

別に、転職活動をしていたわけではないのですが、仲間に「人生のアクセルは踏み続けたい、何なら、さらに踏み込みたい」みたいな事を口にしていたら、トレイルランニング仲間の1人があるレースの直前に、“岡畑興産”のことを教えてくれて、レース後には、岡畑社長と連絡がついてました。（笑）それがきっかけで、次のチャレンジの舞台として、この9月1日から岡畑でお世話になることになった感じですね。（取材時：9月7日）

安泰を捨てたYOUなんだね？

すごく、迷いましたよ、さすがに。いざ、実行に移す時は、さらにビビりましたし。（笑）
そんな僕を後押ししてくれたのが、岡本太郎さんの言葉で「人生は積み減らせ。財産も知識も、蓄えれば蓄えるほど、かえって人間は自在さを失ってしまう」という言葉でした。これからの自分の命を“燃やす場所”や“燃やす仲間”を探していた時に、“岡畑興産”と“岡畑さん、米本さん、Ethanさん達と出会って、「過去にこだわらず、今までの自分なんて蹴飛ばせ、積み減らしてしまえ～」と思い切りました。

そんなYOUがこの1年で岡畑でしたいこと、変えたいことある？

私は靴材料販売事業部の大阪配属です。某北米シューズブランドに日本のトップ素材を売り込むために、ポートランド駐在の木下さんや、岡畑香港営業チームと一緒に仕事をしますが、大阪にいるメリットを活かして、日本メーカーの研究、営業の皆様ともベクトルを合わせて、全員のアクセルも一緒に踏めれば楽しいかなと思ってます。
あと、靴材料や靴作りの知識を自分なりに理解しないとですね。

YOUはまだまだ人生の山を登り走り続けていくんだね？

好奇心とチャレンジ無くしたら、人生つまらないでしょ？
ロングトレイルみたいなものなので、焦らず一歩ずつ、岡畑フットウェア事業の核心地に近づきたいです。

YOUのアクセル踏み込み人生は
まだまだこれからだね。

社長の これ余談なんですけど…

中途採用の方には、「入社前の自由時間は大切に。長期海外旅行でも行ってきてー」と伝えますが、山本さんは、マジで数ヶ月、世界中の自然を遊び倒して回ってたんですよ。入社前、山本さんから定期的に、世界中のどこかの山頂、砂漠から、なんか写真が届くんですよ、生存確認みたいに。（笑）
人生の楽しみ方というか、人生への向き合い方、サイコー過ぎます。
入社時のオンボーディングが、世界一周旅行報告みたいになっちゃったのは困りましたが（笑）。

山本さんの注目 推しナビ 3選

- ランニングシューズの最新技術を解説！ Link
  進化ポイントや選び方も
- カーボンプレート入りシューズの Link
  仕組みや特徴について
- ランニングシューズは厚底？薄底？ Link
  メリット・デメリットや選び方を解説

最近のフットウェア 番外編

～熱人長文ライター藤原さんによるショートインタビュー集～

YOUは何しに岡畑へ？

フットウェア編

～ 大型新人？登場 ～ その 2



YOUのお名前は？

神戸出身のAkiです。

YOUの人生、これまで何してたの？

大学を卒業して、第一志望の商社は最終面接で落ちてしまったのですが、どうしても、その会社で働きたかったので、「次に採用枠が出来たら、連絡いただけませんか!」と社長に直談判したら、数ヶ月後に、連絡いただいて、入社出来ることになったんです。
その会社は、誰もが知っている、某日本一総合商社のバックアップを受ける、少数精鋭繊維商社で、アウトドア素材を主に扱ってました。15年ほどお世話になりました。

意地でも入社したかったんだね。
で、その後、YOUは岡畑に？

いや、次に糸を扱う商社で8年働きました。
糸は通常、インドや東南アジアから輸入することが多いのですが、その時に色々と自らリサーチしていくと、

ウズベキスタンのコットンの品質の良さを見つけ出し、何度も通い、「これならいけるぞー」と確信を持ち、ウズベキスタン駐在員事務所の立ち上げをやらせていただきました。ニッチな世界なんですが、売上もすごく好調だったし、文化的交流も楽しかったですよ。

そんな経歴のYOUがどうして、岡畑に？

ウズベキスタンの仕事では、役割を終えて、帰国しました。そこで、次の会社を探していたら、たまたま岡畑興産を見つけて、9月1日からお世話になっています。（取材時：9月7日）

YOUは責任感と行動力のあるチャレンジャーだね？

そうですかね？（笑）
自分からやりたい仕事をしたいというか、自分で考えて決めてやった方が面白いでしょ。

YOUから見て、岡畑はどう見えたのかな？

んー、なんて言ったらいいのか、わからないですけど、んー、言葉を選ばずに話すと、
すごく、“無茶苦茶な会社”に見えました。（笑）
ガンガンチャレンジするし、米本さんのあの“熱い”感じや、気合と根性でガバナンスも効いてないのかと思ったら、意外ときっちり体系的に考えているし、すごく親近感が湧く会社でしたね。

YOUは褒めてるのか、けなしてるのかわからないね？（笑）

褒めてるというか、思ったことをお話してるだけですよー。（笑）

そんなYOUはこれから、岡畑をどうしたいと思ってる？

1社目で、「知識追求型」な商社の動き方を身につけて、2社目で、戦略的なビジネスの組み立て方と、そこに必須の、“どさ回り”というか、泥臭い営業も経験させてもらいました。

岡畑では「知識追求型」戦略x「どさ回り」の、これまでの経験が全部活かせる気がしています。まずは、靴受託事業部で、戦略的に“槍持って突撃”ですね。

YOUの戦略営業人生はまだまだこれからだね。

社長の **これ余談なんですけど・・・**

弊社の“無茶苦茶さ”を既に見抜いている、毒舌（笑）な観察者。物静かに見えて、A）入社前から、既知のブランドさんに「靴やりませんかー」って自ら、営業に動きだしたり、B）入社数週間で、化学品事業とのコラボ開始。戦略的“どさ回り”を既に有言実行しちゃってる超行動派！

そんなAkiさんの **推しナビ 3選**

- **アウトドアシューズ市場の近年の傾向は？** Link
  最新のトレンドも確認！
- **おすすめの防災靴は？選び方をチェック！** Link
- **靴底（アウトソール）の種類と** Link
  その特性について解説！

～熱人長文ライター藤原さんによるショートインタビュー集～

YOUは何しに岡畑へ？

化学品編

～ 大型新人？登場 ～ その1



YOUのお名前は？

丹野亮介、50歳です。
出身は大阪で、4人の子供を持つ6人家族です。

YOUの人生、これまで何してたの？

関西大学の応用化学を卒業して、100年以上の歴史のある某化学系商社で、台湾や東京で26年勤めていました。直近は、東京へ単身赴任をしていました。

そんな経歴のYOUがどうして、岡畑に？

50歳になる前に、上のポジションへの打診があったのですが、このまま定年になる65歳まで東京で働くと、家族と過ごす時間がほとんどなくなるので、「地位と収入」を取るか「家族」を取るかの判断なんだなーと思ったんです。
31歳で管理職になってから、家族にも迷惑をかけていたし、長女が来年、就職するので、家族6人で過ごすのもあと、1年しかないと思って、奥さんにまず相談して。
奥さんと2人でゆっくり話し合って「転職して、一緒に

暮らす」ということにしました。ご縁あって、この4月から岡畑興産でお世話になることになりました。

YOUは奥さん大好きだね？

はい。（笑）

ということは、YOUは岡畑でなくても、大阪だったらどこでも良かった？

どこでもよかったわけでは無いですけど（笑）、家族がいる大阪は外せなかったですね。実は、他にも数社決まっていたのですが、最後は岡畑に決めました。

YOUを岡畑に決断させた理由は？

色々ありますけれど、最初びっくりしたのは、一次面接から社長が加わっていたんですよ。
私の常識では、いきなり“ラスボス”が現れるとは思わなかったんです。（笑）
細かいところですが、そういう、“人”を大切にするところに感動しました。お話を伺っていくと、会社の“未来”について、その会社の未来の中の、私の“未来”まで、社長が丁寧に話してくれて、すごく心動かされたのを覚えています。

YOUはこれから、岡畑をどうしたいと思ってる？

私はスポーツを観ていると、監督目線になってしまうタイプなんで、岡畑興産も、俯瞰的に、客観的に見てしまいます。例えば、坂出さんがいて、萩田さんがいる、という流れの中で、丹野がいて、誰かがいるみたいな、利他の心で、次の人財を育てていきたいです。
その結果、岡畑がたくさんのお客様に選ばれる会社になればいいと思っています。

関西っぽくない落ち着きある愛妻家なYOU（笑）の人生はまだまだこれからだね。

社長の **これ余談なんですけど…**

愛嬌とインテリジェンスでチームを引っ張るキャプテン・タイプ。愛嬌の裏で、しっかり組織の力学を分かっている岡畑には珍しいタイプかも。岡畑の良さもしっかり分かった上で、岡畑にないものを絶妙なタイミングで持ち込んでくれる、デキる漢。デフォルト、笑顔で卒がない感じですけど、たま〜に怒っていて、そういう人間っぽいところも憎めない人なんだよねー。(笑)

\ そんな丹野さんがイチオシするのは、 /

ハーモセント技術!

「ニオイが変われば、ビジネスが変わる(かも)」シリーズを萩田さんから引き継ぎまして、結果出さねばヤバいです笑、丹野です。



丹野



ニオイが気になる化学製品への臭気対策、たとえば、**ゴム製のトレーニングマットの臭気対策**や Link カー用品の臭気対策などで、採用実績を積み上げ中です。

再生樹脂分野においても量産検討まで辿り着き、いよいよ、ゴム・樹脂ほか、ニオイが気になる化学品界隈でお役に立てるソリューションになり得る確信が!この臭気対策の**コアになるのは、花王のハーモセント技術**。

Link 弊社なりに、Webで解説しておりますので、気になる方は、ぜひクリックを。

お問い合わせも、お待ちしております!

編集後記

見えているものは本当？
（社内報Gazette2026年9月号より転載）

小学生の頃、我が家の書棚に鎮座ましましていた『世界大百科事典』。その最後の二巻は「日本地図」と「世界地図」だった。両親は地球や世界の国々の歴史や地理に興味を持って欲しかったのだろう。クリスマスプレゼントに持て余すほど大きな地球儀をもらったこともある。メルカトル図法とかミラー図法とか地図帳には様々な図法による世界地図が掲載されていたが、どれも一長一短で一番正確なのはやはり地球儀だそうだ。

すっかり高齢になった私だが、最近気が付くと世界地図や宇宙の本を眺めていることがしばしばある。領土をめぐる紛争や戦争も、信じられないほどの大災害も起こっている。移民流入で問題となっているスペインの飛び地のセウタってどこ？ この年齢になっても自分が住んでいる地球にはどのぐらいの国（未承認含め）があり、どれほど多種多様な人々が住んでいて、どんな問題が起きているのか、正直言って漠然としか把握できていない私がいる。

折も折、9月4日、国連総会は現在使われている「メルカトル図法」ではなく「イコールアース図法」の世界地図の使用を促す決議案を賛成多数で可決した。日本を含む164ヵ国が賛成、ウクライナほか6ヵ国が棄権、反対は1ヵ国、驚くこともなくアメリカだ。

中学生の地理で「グリーンランドとオーストラリアのどちらが大きいでしょう」という問題が出されることがあるが、今回アフリカ諸国が中心となって提出したのがまさしくそれ。角度は正確だけれど面積が不正確な「メルカトル図法」ではなく各国の面積をより正確に反映した「イコールアース図法」を使って欲しいというのが、アフリカ諸国の提案の理由だ。グリーンランドとアフリカは「メルカトル図法」では同じ大きさに見えるが、実際はアフリカの面積はグリーンランドの約14倍。もちろんオーストラリアのほうがグリーンランドより大きい。「イコールアース図法」で見ると、アフリカは本当に大きいんだなと改めて思う。

トランプ大統領はメキシコ湾をアメリカ湾に、オンタリオ湖をアメリカ湖にする大統領令に署名したり、ホルムズ海峡をトランプ海峡に、ニューメキシコ州をニューアメリカ州のほうが良い、あと変更するのは海だけだと、名称変更に血道をあげている。ばかげているとは思うものの、ソ連邦が崩壊していろいろな国が分裂したり、植民地から独立して新しい国が生まれたり、都市や国の名前が変わったりと、現在のリアルな世界は私が小学生の時に見ていた地図帳と地球儀とはずいぶんと違っている。

地球は今のところ生命活動が確認されている唯一の素晴らしい天体である。年齢は約46億年で83億以上の人が住み、国の数は一応197ヵ国（北朝鮮含む）。温暖化の影響で氷河や永久凍土が溶けたり、洪水、渇水で食糧難になったり……。世界地図を見ていると見えていないものが見えてくる。何だか急に『星の王子様』を思い出してしまった。〈kiki〉

ニュースレター
バックナンバーはこちら
Click

Okahata
NEWS LETTER
BACK NUMBER

岡畑興産株式会社 ニュースレター／不定期発行
2026年10月2日号
発行：岡畑 典裕

岡畑興産株式会社
大阪府大阪市中央区島之内1-5-6
TEL：06-6251-8252　FAX：06-6251-8278

Okahata
OKAHATA&CO.,LTD

OKAHATA NEWS LETTER
2026.10.2/ Issue 045

© 2026 オカハタとアイデアと